



みんなかがやく！（江東区教育委員会テーマ）

ブリリアンス Next Stage 第7号

～ありのままに今を輝く～

江東区立南砂中学校だより



※9月1日（火）から給食の提供をします。「弁当の日」の分をあてています。

校 長 近藤 啓太

「問いを立てる」という冒険へ！

ある先生から、「総合的な学習の時間（南中探究タイム）では、まず『問いを立てる』ことから始めたい」とのお話を聞きました。探究学習を本格的に進めているところですが、一番大切で、そして難しいのが「問いを立てる」ということです。

さて、「問いを立てるってどういうこと？」 「何をすればいいの？」

読売新聞の[人生案内]で、どんな難題にも哲学者の言葉を引用し、「なるほど！」と膝を叩くような回答をされる哲学者の小川仁志先生（青山学院大学教授）—私は先生の大ファンで、著書も何冊か愛読しています。先日、縁あって小川先生の「哲学カフェ」に参加し、名刺交換をさせていただきました。学校での講演もされているそうで、いつか本校の生徒たちにもお話を聞かせていただきたい、新作の「哲学すごろく」を生徒とやってみたい、と夢が膨らんでいます。今回は、そんな「考えるプロ」である小川先生が教えてくださった、探究学習に大切なことのヒントを紹介します（あくまで私なりの解釈です）。

○「問いを立てる」ってどういうこと？

「問いを立てる」とは、心の中の「あれ？」「どうしてかな？」というモヤモヤを、言葉にしてハッキリさせることです。例えば、平らな地面に棒を「立てる」と、遠くからでもそこがどこか分かります。心の中のモヤモヤはそのままでは見えませんが、言葉にして「立てる」ことで、自分にも周りにも見える「目印」になります。それは、「ここを変えたい」、「もっと良くしたい」というエネルギーです。

探究学習で目指す「いい問い」とは、みんなが当たり前だと思っていることを「疑う」ような問いです。「それってどういうことだろう？」と考えるきっかけを与え、教科書やネットの答えを飛び越えて、物事のホンモノの姿に切れ込む問いを見つけてみてください。

○「問い」とは「冒険」

英語で質問や問いのことを「クエスチョン（Question）」と言います。この言葉、「クエスト（Quest）＝冒険」という言葉からきているそうです。つまり、問いを立てるということは、未知の世界へ一歩を踏み出す「冒険」です。

有名な本や映画に、『君たちはどう生きるか』という作品があります。これは大きな問いですね。

探究学習や進路学習は、まさに「自分はどう生きるか」「この社会でどう過ごしていくか」「より良い世の中にするにはどうすべきか」という、みなさんの一生をかけた大冒険の練習でもあるのです。

○どうやって問いを立てるのか？

心の中にあるモヤモヤを「語る」ことから始まります。「語る」とは、「形にする」ことです。心の中の「おや？」を言葉にして、勇気を出して「問いを外に出す」（誰かに話したり、紙に書いたりする）のです。みんなが問いを外に出すと、今まで「絶対に変わらない」と思っていた現実に、小さな「切れ目」が入ります。その切れ目から新しい風が吹き込んで、社会を変えたり、自分自身を変えたりするきっかけが生まれるのです。

ただ、日本の学校や社会では、間違えるのが怖くて、問いを外に「出さない」、あるいは「出せない」という人が残念ながら多いかもしれません。

誰かが質問をし、先生や周りの人が「いい質問ですね！」と声をかける。答えが合っているかどうかではなく、「問いを立てた—その価値」をみんなで称える雰囲気（文化）が必要です。探究学習を進める中で、周りの人とはちょっと違う「変わった質問」や「変な問い」が思い浮かぶかもしれません。でも、それこそ大歓迎！新しい冒険の始まりです。

《最後に》

誰かの決めた答えを覚えるだけの勉強は終わりです。これからは、自分で問いを立てる時代です。お互いの問いを「それ、面白いね！」「いい質問だね！」と称え合いながら、みんなで「探究」という名の冒険に出発しましょう！



7月2日(木) 関東第一高校と忍岡高校の先生方をお招きし、高校説明会を行いました。各校の魅力や特色に触れ、進路決定に向けた貴重な時間となりました。夏休み期間中は、多くの公立・私立学校で説明会や見学会が開催されます。まずは興味のある学校に足を運んでみましょう。雰囲気を感じることが、家庭学習の大きなモチベーションに繋がるでしょう。



7月6日(月) 開校50周年記念事業の植樹式を行い、各学級の代表生徒が参加しました。合計7本のハナミズキが南砂中OB会《四つ葉の会》から寄贈されました。四つ葉の会・会長のI様、第10代校長のF様にも参加いただきました。

7月8日(水) 生成AIの活用についての出前授業を実施しました。外部講師のコンタンは、「わあ、その発想は天才的だね!」と生徒のアイデアに驚きながらやる気を引き出します。授業ではGeminiを使いこなす「5つの極意(人物、内容、形式、条件、例)」を伝授。「クイズを出して」という簡単な指示が、詳細な条件を加えることで劇的に変わる面白さを体験しました。歴史上の人物との対話やRPG風アプリの考案、未来の製品の画像生成に生徒は夢中。作業に没頭する生徒へも魔法のような声掛けで注目を集め、AIの可能性を楽しく学びました。(1, 2年生は15日に実施しました)



7月9日(木) 本多健一朗教育長をお招きし、SNSやスマホについて考えるトークイベントを開催しました。教育長からは「自分や友人を大切にし、誰も被害者・加害者にならないでほしい」という思いが伝えられました。生徒会長から「南中SNSルール」を発表し、講話の後、グループでスマホ利用の課題と解決策を語り合いました。今後も本校の教育目標である「創造力に富む人」の育成を目指し、テクノロジーを正しく使いこなして新たな価値を創造する力を生徒と共に育ててまいります。



心と体を守り充実した学校生活を送るために

生徒を教職員等による性暴力から守るための第三者相談窓口
(保護者も相談できます)



本校では、お子様が心と体を大切に守り、充実した学校生活を送ることができるように努めており、悩みや不安がある際は、いつでも学校に相談することができます。しかし、周囲の大人に相談しにくい、直接話すことができないなどあった場合は、一人で抱え込まずに、別途配布します「相談シート」(学校HPからもダウンロード可)を活用し、相談することができます。

ご家庭におかれましては、学校生活における出来事について話し合う機会をもってください。お子様が「痛い」「怖い」「おかしい」「モヤモヤする」「イヤだな」と感じる事があれば、学校に御相談いただくか、相談シートや各種相談窓口を御利用ください。相談シートは、性暴力等だけでなく、体罰等に関する相談も記載することができるようになっております。

<夏休みに向けて>

地域において、未成年者による飲酒や喫煙と思われる情報が寄せられています。他校生との情報ですが、夏休みを前に、ご家庭でも改めてお子様とお話してください。

未成年の飲酒・喫煙は健康への影響だけでなく、その場の雰囲気や誘いで判断を誤り、将来に関わる大きな問題へ発展することもあります。

○「誘われてもきっぱり断る」

○「危険だと感じたらその場を離れる」

○「困ったときは信頼できる大人に相談する」 ことを、お子様にお伝えください。

一人一人が自分自身を大切に、自分の未来を守る行動ができるよう、学校でも指導を続けてまいります。気になることがありましたら、学校までお知らせください。また、お子様の安全に関わることには、ためらわず110番(警察)に通報してください。

(お知らせ) ○主任教諭が7月から出産休暇、続けて育業に入ります。
代替として、引き続き T 教諭がつばさ教室の授業を担当します。